

## 平成 26 年度佐賀県緑化運動・育樹運動ポスターコンクール審査会講評

(全体について)

- ・樹々を大切に想う気持ちが、構成や色使いから伝わってきました。  
木のまわりで遊んでいる様子や、植樹し、大切に育てていこうとする姿を子供含め、よく描かれていました。高校では、ポスターとしての表現に工夫がみられました。
- ・どの作品からも自然や緑の素晴らしさを感じることができた。  
特に入賞した作品は、訴えたい内容や表現したいことが明確であった。
- ・全体として、高学年になるに従い、植樹作業や苗木が少ない気がした。高学年になるに従ってイメージになるのでしょう。

(知事賞について)

○小学生の部

- ・クレヨンでのびやかに樹々が描かれていて、植樹する楽しさが伝わってきました。
- ・おおらかでのびのびと描かれていた。人物の表情や色使いも明るく好感がもてた。
- ・小学生ならではの原色を用いた明るい色調が良い。  
大きな手で苗をもって、大きな瞳で植樹しており、かわいさもある。

○中学生の部

- ・土に触れ、大切そうに植樹している表情に好感がもてました。  
木のまわりに暖かい色を使うことで、より一層表現できています。
- ・育樹という主旨が力強く表現されていた。
- ・二人で仲よく未来へ向けている。  
ハートは、二人をつないで緑を大切にすることを考えられる。

○高校生の部

- ・木を仰ぎ見る構成により、大きな木から守られている有難さやいつくしんでいる感じが伝わってきます。  
子供が両手をあげている構図は、木とともに成長していく喜びを感じました。  
葉の色合いも中間色で優しくまとめられています。
- ・見上げた構図で描かれている樹木や木漏れ日の様子が巧みで自然のすばらしさがよく表現されていた。
- ・タッチや色彩が非常にすばらしい。  
見上げた木の大きさが伝わってくる。